

発達障害の理解と支援

Q&A

—改訂版—

発達障害について理解してほしい。

発達障害のある人々の困難さをわかってほしい。

違いを尊重し、お互い学びあいながら、ともに生き生きとした生活をおくりたい。

このパンフレットはそんな願いから書かれたものです。



坂上卓也（10歳）作「地球」（2007年）

北九州市

北九州市発達障害者支援センター「つばさ」

北九州市発達障害児者支援体制整備検討委員会

「このパンフレットは？」

このパンフレットは、自閉症スペクトラム、学習障害、注意欠陥多動性障害といった、脳の働きの違いによって生じる発達障害について説明したものです。発達障害のある人は、定型発達の人（標準タイプ）とは異なった脳の特徴をもって生まれてきます。そのため、定型発達の人とは異なった成長・発達の仕方をする。

また、成長・発達の仕方に「でこぼこ」や偏りが見られます。成長しないのではなく、成長の仕方に違いがあるということです。

ところが、本人の周囲や社会の理解の仕方が人と異なっており、また、周囲からはわかりにくい障害でもあるため、発達障害のある人たちは、さまざまな生きづらさを抱えながら成長します。発達障害のある人たちが、より充実した社会生活をおくるためには、周囲の人々の理解と協力が欠かせません。

この冊子での「発達障害」という用語について

平成17年4月1日に施行された「発達障害者支援法」第二条の定義に基づきます。発達障害者支援法において、『「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。』と定義されています。

「発達障害って何？」

次のページの図は、発達障害の関係を示したものです。この図で、大きな楕円で示しているのが、「自閉症スペクトラム（広い意味での自閉症）」です。自閉症スペクトラムといっても、知的な発達の遅れを伴うものから、標準を上回る知的能力のある場合まで、幅の広がりがあります。この図では、知的発達にさほど遅れを伴わない場合を高機能自閉症、さらに知的な発達の遅れと言葉の遅れのない場合をアスペルガー症候群としています。知的な発達や言葉の遅れの状態からすると区切りがはっきりしないこの幅の広がりを光のスペクトラム（虹）に例えて、自閉症スペクトラム（連続体）とも言われます。医学的には、広汎性発達障害と呼ぶことが多いです。また図の右側には2つの円があります。一つは、学習障害（LD）と言われているものです。もう一つは、注意欠陥多動性障害（ADHD）です。

自閉症スペクトラムの楕円と、LD、ADHDの円は、互いに重なり合っています。

「発達障害への気づきのポイント」



発達障害のある子どもには、活発な子ども、おとなしい子どもなど、いろいろなタイプの子どものいます。「やる気がない」、「わがままだ」、「親の愛情不足ではないか」などと、よく誤解されます。本当は発達にデコボコがあり、苦手なことをもっているのです。場面により行動がガラッと違ったり、「おしゃべりもできるし、楽しそうに友だちと過ごしています。何も問題ないですよ。」と全く気づかれなかったりすることもあります。周囲は、子どものつまずきや、行動で現すサインに敏感でありたいものです。周囲の気づきなくして、子どもへの理解・支援は始まりません。

そこで、気づきのポイントについて説明したいと思います。

自閉症スペクトラムは、通常、3～4歳までにはその特性がはっきりしてきます。言葉が出ない。目線が合わない。気持ちを共有することができない。指差しができない。他人の存在を無視するような行動がみられる。長時間くるくる回って感覚を楽しむ行動がみられる。極端に周囲との接触を拒む、いつも激しく動き回っている。何かを特に怖がる。大きなパニックをしばしば起こすなど。人とのかかわり方や感覚がどうも他の子どもとは違うという印象を持つことがあります。

このような場合、まず発達に何らかの困難さを抱えているのではないかと考えてみるのが重要です。早期発見はお子さんの生きづらさを軽減するためのものです。お子さんの発達に少しでも疑問を持ったなら、まず専門機関に相談してみることが大切です。子どもの発達について相談することは、決して恥ずかしいことではありません。北九州市の場合、北九州市立総合療育センター（※1）や北九州市子ども総合センター（※2）などがあります。



もし、発達障害の診断を受けた場合、適切な支援につなげることが大切です。発達障害の子どもは、決してダメな子ではありません。しかし、周囲の正しい理解と工夫が欠かせない子どもたちです。適切な支援は、お子さんの生きづらさを

軽減し、その子なりの成長を促すことにつながります。また、各種親の会等を通じてさまざまな情報を収集したり、子育ての仕方を学んだり、お互いに悩みを共有したりすることで、お子さんを取り巻く環境を整備していくこともできます。大切なことは、一人で悩まないことです。

学習障害に関しては、小学校入学後に明らかになる場合が少なくありません。ある教科での学力の低さとして現れるのが普通です。ですから、極端に苦手な教科等のある場合、単純に本人の努力不足と判断せず、学習障害を考えてみることも重要です。まず、学校と家庭が密接に連携し、本人の困難さを共有することが必要です。その上で、教育方針に関して双方が合意を形成し、具体的な指導を行うことが特に重要となります。いずれにしても、「何か違う」と感じた場合は、できるだけ早く、北九州市立総合療育センターや北九州市発達障害者支援センター「つばさ」(※3)、北九州市立特



別支援教育相談センター(※4)、各学校に配置されている特別支援教育コーディネーター(※5)などの専門機関や専門員に相談することが大切であることには変わりありません。なお、学習障害の子どもは、他の発達障害を有している場合が多くみられます。

また、早期発見・早期療育の重要性とともに忘れてはならないのが、手遅れなどないということです。特に知的発達に遅れを伴わない場合、大人になって初めて気づく場合も多いからです。そういう場合、当事者は長い間、なんらかの違和感や生きづらさを感じながら原因が分からない状況で生きてきたわけです。自分自身や周囲が発達障害の特性、苦手な面、得意な面などを理解し、ちょっとした工夫をすることで、新しい世界が開ける場合もあります。診断を受けるということは、より良い人生をおくるためのものです。成人の場合、北九州市発達障害者支援センター「つばさ」などに相談することができます。

いずれの場合も、正確な情報を入手し、正しい理解を深めることが大切な一歩となります。

「支援のはじまいQ&A」

最後に、こんなときは（Q）、こんなふうを考えてみたら（A）

といったQ & A 形式で、具体的支援について考えてみたいと思います。

「幼 児 期 ・ 学 齢 期 編」

(P11 ~ P15)

「青 年 期 ・ 成 人 期 編」

(P16 ~ P21)

「雇用分野の発達障害者への支援施策」

(P22 ~ P23)

「幼児期・学齢期編」

Q 1 会話の時など、相手の言っていることが、よく理解できていないようで、話がかみ合わないのですが？

A 1 言葉（音声）による情報は、瞬時に消えてしまいますので、発達障害のある人には理解しづらい場合があります。言葉を使う場合には、まず、やさしく、ゆっくりと話しかけてください。また、回りくどい表現、間接的な言い方、あいまいな表現は避け、簡潔に情報を伝えてください。文字、絵、身振りなどで視覚的に分かりやすく伝えると理解しやすいと言われていています。視覚的な情報の理解はとても優れている人が多いようです。こんな絵で分かってもらえるだろうかと思っても、そんなちょっとした工夫が、お互いの意思を伝え合う有効な手段になることがあります。



Q 2 相手の気持ちが理解できないようで、場にそぐわない不適切な言動が見られるのですが？

A 2 相手の心を読む、相手の気持ちになって考えるということは、集団の中で生活するときにはとても重要なことです。多くの方は、日常生活のなかでそれらを学んでいきます。しかし、発達障害のある人の中には、それらを自然に学ぶことに困難を抱えている人が多いようです。そのため、時として相手の気持ちを考えないような言動をとってしまうことがあります。結果的に周囲となじめず、いじめの対象となってしまうこともあります。ですから、まず本人は決して悪気があってそうした言動を取っているのではないことを周囲が理解してください。そして、本人にわかるように、丁寧に全体の状況を説明したり、相手の気持ちに気づくことを促してみてください。マンガのように絵や吹き出しを用いて説明すると分かりやすい場合もあります。



Q 3 社会のルールが理解できていないようですが、どうしたらよいのでしょうか？

A 3 社会生活をしていく上ではいろいろなルールがあり、それを守らないと円滑な生活を営むことはできません。ただ、発達障害がある場合、ルールが本当に理解できているか、周囲が立ち止まって考えてみてください。ルールが分かっていないために、守れない場合も少なくありません。もし、ルール自体が分かっていないようでしたら、分かりやすく説明してあげてください。



また、「～はダメ」とか「～はしてはいけません」といった言い方は、してはいけないということ伝えるだけで、どうしたらよいのかを伝える言葉ではありません。「～は・・・だから、***します」といったように具体的に何をすればよいのかを明確に伝えるように心がけてください。その際にも、視覚的な情報を用いると有効です。

Q 4 ものごとにこだわりが強く、わがままで、周囲が迷惑しているのですが？

A 4 発達障害のある人の中には、自分の考え方やルールにこだわる、興味関心のあるものに特に熱中する傾向が強い人がいます。周囲は、その言動に困惑する場合もあるかもしれません。そのような場合、一方的にやめさせるのではなく、お互いに納得するルールを決めるときなどに交渉をするという姿勢が重要で



す。また、すぐに「こだわり」や「わがまま」と判断せず、その「こだわり」や「わがまま」が、周囲に迷惑をかけているものか、考え直してみることも重要です。私たち一人一人の趣味が異なるのと同様に、趣味関心の持ち方や強さが違うだけで、誰も迷惑をこうむっていない場合もあるのではないのでしょうか。

Q5 しばしば大きなパニックをおこすのですが？



A5 発達障害があるからといって、理由もなくパニックを起こすわけではありません。パニックには、必ず理由があります。まず、その理由を考えてみるのが重要です。

発達障害のある人の中には、見通しが立たないことに対する不安からパニックを起こす方もいます。そのような場合は、事前にスケジュールなどを分かりやすく説明し、見通しを立てさせて安心感をもってもらうだけで、パニックの回避につながります。急な変更を避け、変更する場合は、事前に丁寧に説明するなど重要なことです。

また、感覚過敏がパニックにつながる場合もあります。その場合には、刺激に慣れろと強要せず、耐えられない刺激から遠避けてあげることが重要です。サングラスで光刺激を弱める、耳栓で音刺激を遮断するなど、ちょっとした工夫でパニックを回避できる場合があります。

パニックを起こして一番辛いのは本人です。まず、パニックを起こさない環境設定と工夫が重要です。

Q6 パニックを起こしてしまったのだが、どのように対応すればよいのでしょうか？

A6 パニックを起こしてしまった場合には、まず周囲から危険なものを取り除いてください。いろいろな刺激を遠ざけ、本人が移動できる場合は、本人の落ち着く場所に移動させ、おさまるまで静かに見守ってください。不用意な声かけや慰めは、逆効果になる場合があります。安全を確保しながら、落ち着くまで寄り添うといった姿勢が重要です。



どうしても頻繁にパニックが起こる場合には、身近な場所に本人の落ち着ける場所（カームダウン・エリア）などを作っておくことも大切です。パニックがおさまったら、自分をコントロールできたことを褒めてあげることも重要です。パニックは、起こしたくて起こしているわけではありません。周囲の不適切な対応がパニックにつながる場合が多いのです。周囲の適切な対応の大切さを再度考えてみてください。

Q 7 特定の教科や科目が極端に苦手なのですが？

A 7 特定の教科や科目が極端に苦手な場合、まず、その原因を専門家と検討することが大切です。場合によっては、ちょっとした工夫で解消されることもあります。しかし、それでも苦手さが残ることがあります。そのような場合、代替手段の利用などを考えてみる必要もあります。本人を追い詰めるのではなく、苦手な面は別の方法で補い、得意な面を伸ばしてあげるといふ姿勢が重要です。本人の努力不足が原因ではない場合、自尊心を傷つけないことはとても大切です。



Q 8 授業中、じっとしてられず、ウロウロするのですが？

A 8 まずは、授業の内容が理解できていないからだと考えてみてください。その場合は、本人の能力に合わせた課題設定が重要となるかもしれません。また、先生の指示が分からないような場合には、目で見て分かりやすい情報を用いるなどして、「何を」「どこで」「どのように」「どれくらい」「終わったら何をするのか」を明確にすることがとても有効な場合もあります。ちょっとした刺激に反応してしまう場合には、席の位置を刺激の少ない場所に移すなどが効果的な場合もあります。



そうした工夫を試みても離席が目立つ場合には、「離席する際は先生の許可を得る」などルールを決めて、徐々に自分をコントロールできるように導いていくことが重要です。強要しても効果はありません。

また、薬物療法が効果的な場合もありますので、適切な医療機関に相談してみるのも良いかもしれません。

Q 9 ものごとをすぐ忘れてしまい、忘れ物などが多いのですが？

A 9 ちょっとしたことでもメモを取ったり、チェックリストを利用するなど、視覚的に残るもので確認する習慣を付けさせることが重要です。メモやチェックリストを見ることも忘れてしまうような場合でも、しからずに必ず目に触れるように工夫してあげることが大切です。



Q 10 かかわり方のコツをひとこと言えば？

A 10 「肯定的にかかわる」この一言につきると思います。「それでいいよ」、「そうしてほしい」という振る舞いを伝えましょう。また、叱る機会より褒める機会を増やしましょう。ちょっとしたお手伝いをお願いするなど、褒める機会を意識的に作っていくこともとても大切です。褒めることは、肯定的にかかわることにつながります。「肯定的にかかわる」楽しさを、周囲が感じることができるようになれば、大成功です。



イラスト

たけした とも
竹下 智さん
ごんどう あい
権藤 愛さん

《北九州市自閉症協会作成 Q&A 集より引用改変》

「青年期・成人期編」

Q 1 ちょっとしたことでも周囲の人と言い争いになってしまいます。普通に話しているつもりでも、相手が不愉快になったり怒り出してしまう。自分では普通に指摘したり話したりしているつもりなので、なぜそうなるのかわからないのですが？



A 1 「悪気はないがストレートなことばで相手を怒らせてしまう」、「ちょっとしたミスでも許せない」など、周りの人とのコミュニケーションがうまくいかないために、友だちができない、家族とうまくいかないことなどに悩んでいる人もいます。

コミュニケーションの難しさの1つに、「その場に応じた言動や臨機応変な対応が苦手」ということがあり、そのこと

で周囲の人に誤解を与えてしまいます。

そのために、本人は不安やストレスを抱えがちになります。

まず、自分の特性を把握し、周囲の人に理解してもらう必要があります。さらにその場での対応として、「気になることをメモに残し、信頼できる人に相談する」「人のいない落ち着ける場所で深呼吸やストレッチなどを行い、気持ちを落ち着かせる」などの工夫も考えてみるのも1つの方法だと思います。

Q 2 仲間や同僚との会話に入れませんが？

A 2 興味関心の違いや話すタイミングがわかりにくい、話している内容がよくわからないなどから、「仲間や同僚との会話にどう関わったらよいかわからない」ということもあると思います。会話には、辞書に載っていないことばを言ったり、ことばを使

わず、目配せでやり取りをすることも日常的によく行われます。

自分だけがわからないと思うと、ストレスが強まるのは無理ありません。困っていることがなかなか言い出せず、学齢期に学校に行けなくなって初めて周りに気づいてもらえたという人もいます。

しかし、自分自身の苦手さと持ち味を他の人に相談したり、助けてもらったりすることによってうまく対応している人もいます。

もし、家族や同僚、上司等に話しても分からない場合には、相談に乗ってくれる機関を利用することもできます。一人で悩まず、ほかの人からアドバイスしてもらうことで楽になることがあります。



Q 3 勉強や仕事などでわからないとき、どのように質問をすればよいかわからずに、悩むことが多いのですが？

A 3 学校や会社、事業所等にキーパーソン(本人を理解し、相談役になるとともに、職場の同僚などの間に立ち、調整を図ることで適切な支援を行う人)を作っていただくようお願いしましょう。

Q 4 自立した生活を送りたいのですが？



A 4 『自立』というと、“他人を頼らずに生きていけるようになること”と想像されるのではないのでしょうか。しかし、実際の私たちは、障害のあるなしにかかわらず、さまざまな場面でいろいろな人たちに支えられながら生活しています。“自分のできるところは自分で行うが、状況に応じて、必要なサポートを受けながら、その人らしい

生活を実現させていくこと”が、『自立』を考えていく上で大切なポイントの一つだと考えます。

発達障害のある人は、障害特性や対人関係でつまずいた経験等から、SOS を適切に出すことが苦手な人が多いため、ご家族や身近な支援機関の職員等と、困ったときに相談できる関係を築くことが大切になります。家事や金銭管理・経済的な問題等についての相談や制度についての情報提供は、発達障害者支援センターだけでなく、北九州市障害者基幹相談支援センター（※6）でも受けることができますので、お気軽にご相談ください。

Q 5 就労を援助してくれる機関やサービスを教えてほしいのですが？

A 5 福岡障害者職業センター北九州支所（※7）や北九州障害者しごとサポートセンター（※8）、ハローワークも支援メニューがあります。

※ 北九州市内にある公共職業安定所の中で、小倉公共職業安定所（※9）（ハローワーク小倉）に、「就労支援ナビゲーター」と呼ばれる相談員がいます。

「就労支援ナビゲーター」は、40歳未満の方で、コミュニケーションに不安のある方の就職までのサポートや発達障害のある方の就業相談等を行っています。

障害者手帳の有無による就労上の大きな違いは、一定規模以上の企業は、障害者の雇用義務が法的に課せられるため、手帳所持者を採用したいと考える企業が多く、求職と求人のマッチングがしやすくなることが挙げられます。それ以外にも、障害の内容が理解されやすく、障害特性に配慮された働き方ができ、ジョブコーチ派遣など、働く現場に入り込んだ支援が可能になります。



Q 6 障害のことを会社に伝えたほうがよいのでしょうか？

A 6 仕事中や職場内での付き合いなどで、困ったなと感じる程度や頻度から考えられてはいかがでしょうか。もし、たくさんあるようでしたら、会社に自分の状態のことを伝えていくことも、働く上での「困り感」を軽減していく一つの方法ではないかと思います。障害を含めた自分のことを知ってもらうことで、自分一人では上手く対応しきれないことを周囲に手伝ってもらったり、不必要な誤解やトラブルが生じることが少なくなると考えられます。

しかし、「言う」「言わない」は、決して誰かに強制されるようなことではなく、最終的にはご自身の判断になります。

また、「どのように伝えるか」は、「どのような支援を望むのか」にもつながる点です。一人で悩まずに主治医やハローワーク、発達障害者支援センター等に相談し、一緒に考えながら「伝え方」や「伝える内容」などを整理していきけるとよいでしょう。



Q 7 上司の指示の内容がよくわからないのですが？

A 7 ①複数の指示をうまく処理することが難しい。②口頭による指示をうまく理解することが難しい。③上司の考えや気持ちを察することが難しい、などに起因している場合が考えられます。



解決方法として、上司から「指示は優先順位を決めたくて1つずつ出してもらう」ことが有効と考えられますが、上記①～③の特性についても理解してもらえるとイライラ感が減らせるのではないのでしょうか。ご自身が行える方法としては、「指示されたことをメモに取る」「イライラした時の対処法を事前に考えておく」などが考えられ

ます。

また、障害のある人がうまく職場に適応できるように、職場に直接出向き支援を行う「ジョブコーチ」がいます。事業所との橋渡しを担ってもらうためにジョブコーチの支援を活用することも有効と考えられます。

Q 8 他者とのコミュニケーションのとり方がわからないのですが？

A 8 発達障害のある人で、他者とのコミュニケーションのとり方について悩んでいる人はたくさんいます。その理由として、「相手が意図していること」「その場の雰囲気」「会話の脈絡」などを察することが得意でない人が多いなどがあげられます。

同僚との会話に参加を望む場合、苦手としている事項をあらかじめ職場の人に伝えておくと、周りの人から会話の中に入るよう勧められたりなど、一定の配慮が得やすくなったりするのではないのでしょうか。

しかし、他者とうまく話ができないのではないかとの思いから、緊張感が過度に高まってしまう場合では、昼の休憩時間など、同僚との会話が多い場面は、一人で過ごさせてもらうこともできると思います。

ご自身が、どちらを希望されるのかももう一度考えたうえで、職場の人に相談してみてもいいのではないでしょうか。



Q 9 真面目に仕事をしているが、周りの人たちから「仕事が遅い」「ミスが多い」などと、たびたび注意され、職場の人と気まずい関係になったり、仕事に自信をなくしてしまい、そのため、短期間で仕事を辞めてしまうことが多いのですが？

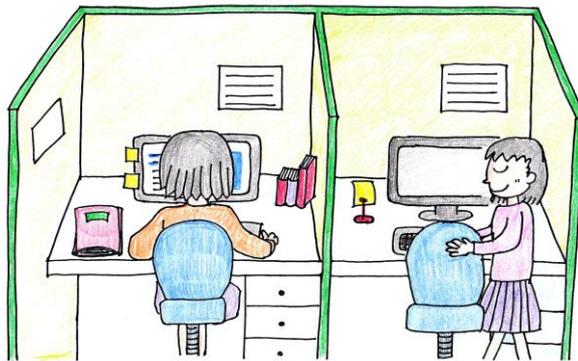
A 9 努力をしているのに、仕事が長続きしないとか、何回面接を受けても採用されないなどという経験から、自信をなくし、自分にどのような仕事が向いているのか、わからなくなってしまうことがたびたび起こります。仕事に適応できず、さま



さまざまな悩みを抱えている人は少なくありません。まず、「自分の特性を理解する」「自分ができそうな職業を選ぶ」「職場で上手に過ごす」ことなどについて、相談機関へ相談し、相談機関の協力を得て、職場への支援や調整なども含めた対応を考えてみてはいかがでしょうか。

Q10 仕事で一度にいくつかの指示をされたり、急に予定が変わったりすると、どうすればよいかわからなくなる場合がありますか？

A10 1日のスケジュールや手順を、図や写真を取り入れるなどの工夫によりわかりやすく明示したり、指示などを簡潔に明確に（「いつ、どこで、何を、いつまでに、どのようにやるのか、どうなったら終了なのか、終了したらどうするのか」など）し、わかりやすくする方法があります。また、集中して仕事が行えるよう、周囲の刺激を防止するための「仕切り」をつけたり、雑音の少ない場所で作業をしたりすることが考えられます。



☆ (Q1・Q3～Q10)

さいたま市発達障害者支援体制整備検討委員会発行

《ちょっと気になる子（発達障害）を理解するために》より引用改変

☆ (Q2)

発達障害情報センターホームページ

《こんなとき、どうする？思春期編Q&A》より引用改変

＜イラスト：北九州市発達障害者支援センター スタッフ＞

「雇用分野の発達障害者への支援施策」

『すぐにでも就職したい』『具体的な就職先を紹介してほしい』方

1 ハローワークにおける職業相談・職業紹介

個々の障害者に応じた、きめ細かな職業相談を実施するとともに、福祉等関係機関と連携した「チーム支援」による就職の準備段階から職場定着までの一貫した支援を実施します。

併せて、ハローワークとの連携の上、地域障害者職業センターにおいて、職業評価、職業準備支援、職場適応支援等の専門的な各種職業リハビリテーションを実施します。

2 障害者試行雇用（トライアル雇用）事業の推進

事業主に障害者雇用のきっかけを提供するとともに、障害者に実践的な能力を取得させ、常用雇用へ移行するための短期間の試行雇用を実施して、障害者雇用を推進します。

『じっくり相談にのってほしい』『少しずつ就職に向けた準備を進めていきたい』方

1 若年コミュニケーション能力要支援者就職プログラム

ハローワークにおいて、発達障害等の要因により、コミュニケーション能力に困難を抱えている求職者について、その希望や特性に応じて、専門支援機関である地域障害者職業センターや発達障害者支援センターを紹介するとともに、障害者向けの専門支援を希望しない者については、きめ細かな個別相談、支援を実施しています。

2 地域障害者職業センターにおける職業リハビリテーション

ハローワークとの連携の上、地域障害者職業センターにおいて、職業評価、職業準備支援、職業適応支援等の専門的な各種職業リハビリテーションを実施しています。また、障害者職業総合センターにおける技法開発の成果を活用し、地域障害者職業センターで発達障害者に対する専門的支援の施行実施を行っています。

3 職業能力開発関係

(1) 一般の職業能力開発校における発達障害者を対象とした職業訓練モデル

一般の公共職業能力開発校において、発達障害者を対象とした訓練コースを設置し、その障害に配慮した職業訓練を行う事業を実施しています。

(2) 障害者職業能力開発校における発達障害者対象の訓練の実施

中央障害者職業能力開発校及び吉備高原障害者職業能力開発校において、発達障害者を対象とした専門的な職業訓練を実施しています。

(3) 障害の態様に応じた多様な委託訓練

身近な地域で職業訓練が受講できるよう、居住する地域の企業、社会福祉法人、NPO 法人、民間教育訓練機関等を活用した障害の態様に応じた多様な委託訓練を各都道府県において実施しています。

『職場定着のための支援をしてほしい』『就職後も相談にのってほしい』方

1 福祉施設の人材を生かしたジョブコーチ支援の充実（障害者雇用納付金事業）

福祉施設の職員が行うジョブコーチ支援について、障害者雇用納付金制度に基づく助成金の支給を行うことにより、福祉施設のノウハウを生かした効果的な職場適応援助を行います。

2 障害者就業・生活支援センター事業の拡充

雇用、保健、福祉、教育等の地域の関係機関ネットワークを形成し、障害者の身近な地域において就業面および生活面における一体的な支援を行う「障害者就業・生活支援センター」（北九州市の場合、北九州障害者しごとサポートセンター）にあたります）の設置箇所数を拡充します。

※ 北九州障害者しごとサポートセンターは、国・県が設置した「北九州障害者就業・生活支援センター」と、北九州市が設置した「北九州市障害者就労支援センター」が、一体的に活動する就労支援の拠点です。

「北九州障害者しごとサポートセンター」パンフレットより引用)

(厚生労働省ホームページ：「発達障害者の就労支援」より)



	機 関 名	住 所	電話番号 (FAX)
※ 1	北九州市立総合療育センター	〒 8 0 2 - 0 8 0 3 北九州市小倉南区春ヶ丘 10-2	093-922-5596 (093-952-2713)
※ 2	北九州市子ども総合センター	〒 8 0 4 - 0 0 6 7 北九州市戸畑区汐井町 1 - 6 (ウエルとばた 5階)	093-881-4556 (093-881-8130)
※ 3	北九州市発達障害者 支援センター「つばさ」	〒 8 0 2 - 0 8 0 3 北九州市小倉南区春ヶ丘 10-2	093-922-5523 (093-922-5523)
※ 4	北九州市立 特別支援教育相談センター	〒 8 0 2 - 0 8 0 3 北九州市小倉南区春ヶ丘 10-2	093-921-2230 (093-923-3010)
※ 5	特別支援教育コーディネーター	特別支援学校、小学校、中学校、高等学校に配置されている。	
※ 6	北九州市障害者基幹相談支援 センター	〒 8 0 4 - 0 0 6 7 北九州市戸畑区汐井町 1 - 6 (ウエルとばた 6階)	093-861-3045 (093-861-3095)
※ 7	福岡障害者職業センター 北九州支所	〒 8 0 2 - 0 0 6 6 北九州市小倉北区萩崎町 1-27	093-941-8521 (093-941-8513)
※ 8	北九州障害者しごとサポート センター	〒 8 0 4 - 0 0 6 7 北九州市戸畑区汐井町 1 - 6 (ウエルとばた 2階)	093-871-0030 (093-871-0083)
※ 9	ハローワーク小倉	〒 8 0 2 - 0 0 6 6 北九州市小倉北区萩崎町 1-11	093-941-8609 (093-941-8631)





この冊子は、「北九州市発達障害児者支援体制整備検討委員会」で検討して作成されました。内容等についてのお問い合わせは、「北九州市発達障害者支援センター」でお受けします。

(電話番号) **093(922)5523**

また、「北九州市発達障害者支援センター」のホームページ上に掲載しておりますので、必要な場合はダウンロードしてお使いください。

(ホームページアドレス) <http://www.tsubasa.kitaq-src.jp>

なお、イラストを別途使用する場合、著作権上ご本人の承諾が必要ですのでご注意ください。



2007年3月
2011年3月

第1版 第1刷
改訂第1版